

授業科目名 ( 英文名 )	基礎ゼミナール (K1) (Basic Seminar)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	1年次・前期
担当教員	井上 尚三	所属	工学研究科
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p><b>講義目的</b> 本講義では、入学初年次に新しい環境に適応して大学での主体的な学習方法を身につけるとともに、他人と自由に意思疎通が行えるコミュニケーション能力を養うことを目的としている。理科系のコミュニケーション能力では、情報の収集技術の他、自分の考えや計画、成果を文書（報告書、論文など）にまとめる力やプレゼンテーション技術が特に重要視される。このような要請に応え、それらの方法論を学ぶと共にコース配属や将来の研究活動に必要な知識を修得していく。</p> <p><b>到達目標</b> 他人と自由に意思疎通を行うために、理科系としての文章作成力、プレゼンテーションやディスカッションを自由に行える能力を修得する。</p>		
講義内容・授業計画	<p><b>科目の位置づけ、教育内容・方法</b> まず、大学における主体的学修や生活の基本的態度について概説した後、授業でのノートの取り方からはじめ、論理的で伝わる文章を書くテクニックをマスターできるように講義していく。さらに、グラフや表による数の表現や図による意思の伝達方法に対する理解を深めるとともに、プレゼンテーション技術の修得を目指す。プレゼンテーションについては、ディベート的なテーマについてグループで取り組んでもらう。</p> <p><b>授業計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概論（学内LANへのアクセス）</li> <li>2. 電子メールの使い方、理科系の文書（短文修正1）</li> <li>3. 理科系の文書（短文修正2）</li> <li>4. 理科系の文書（文章の要約）</li> <li>5. プレゼンテーションの目的と方法</li> <li>6. 数の表現方法、表の作成と計算</li> <li>7. 数の表現方法、グラフの作成</li> <li>8. 発表内容の検討、プレゼンテーションの準備</li> <li>9. 効果的でわかりやすい図の作り方、プレゼンテーションの準備</li> <li>10. 英語によるプレゼンテーション、プレゼンテーションの準備</li> <li>11. プレゼンテーションの準備</li> <li>12. プレゼンテーションの実施</li> <li>13. プレゼンテーションの実施</li> <li>14. プレゼンテーションの実施</li> <li>15. 講評</li> </ol>		
テキスト	適宜、プリントを配付する。		
参考文献	天野明弘・太田 勲・野津隆志編集（2008）『スタディ・スキル入門 大学でしっかりと学ぶために』有斐閣		
成績評価の基準・方法	<p><b>成績評価の基準</b> 講義目的・到達目標に記載する能力（理科系としての文章作成力、プレゼンテーション力、ディスカッション能力）の到達度に応じてSからCまでの成績を与える。</p> <p>出席及び受講態度20点、レポート課題35点、プレゼンテーション45点で採点し、評価する。</p>		
履修上の注意・履修要件	この講義では実習が重要な部分を占めるので、必ず毎回出席すること。出席が8割に満たない場合は単位を認定しない。また、プレゼンテーションに関しては、内容の検討・スライドの準備・発表練習など講義時間外の作業も必要である。		

	<p>新型コロナウイルス感染症に伴う特例措置に基づく遠隔授業 当授業は、原則全ての授業を対面で実施する予定ですが、履修者人数によっては、新型コロナウイルス感染症対策として、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とすることがあり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。</p>
実践的教育	該当しない
備考	本学の配付資料を参照してください。